

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 佐藤 彰彦	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none">・講義では、「地域社会学」「コミュニティ振興論」「社会学」を担当した。・演習 I を担当し、前半ではコミュニティならびに地域社会学、後半では各自の研究テーマにそくした学術論文の輪読を中心に活動した。・また、「グループ研究」において、受講生に高崎市の政策課題を考えてもらい、彼らが自ら設定した 3 つのテーマ（中山間地の過疎、中心市街地活性化、市政へのパブリックインボルブメント）ごとに共同調査・研究を行い、その成果を政策提言というかたちでまとめた。・毎回の講義で受講生にコメントシートを記入してもらい、共通して理解が不足している箇所や疑問点などにかんし、次回以降の講義でフィードバックするよう努めた。 <p>(2) 研究活動</p> <p>①書籍・論文など</p> <ul style="list-style-type: none">・(共著)『原発被災地復興のシナリオ・プランニング』公人の友社・(共著)『人間なき復興 原発避難と国民の「不理解」をめぐって』筑摩書房・「地域政策研究におけるアンケート調査再考」日本地域政策研究 18:114-119.・(共著) “Challenges of just rebuilding: case studies of Iitate Village and Tomioka Town, Fukushima Prefecture,” Yamakawa, Mistuo and Daisaku Yamamoto eds., 2017, Rebuilding Fukushima, New York: Routledge. <p>②報告・発表など</p> <ul style="list-style-type: none">・日本社会学会大会で個別研究報告をおこなった。・地域社会学会大会の大会シンポジウムの企画・運営にかかわり、コーディネーターをつとめた。 <p>③その他研究活動</p> <ul style="list-style-type: none">・科研費基盤 B の研究代表者として研究会の運営と研究活動に従事した。・科研費基盤 B ならびに基盤 C の研究分担者として研究会に参加し研究活動を遂行した。	
<p>2 その他の事項</p> <p>(1) 社会貢献</p> <p>①学会関係</p> <ul style="list-style-type: none">・地域社会学会研究委員会大会実行委員として、大会シンポジウムの企画・運営にかかわり、コーディネーターをつとめた（再掲）。 <p>②委員会など</p> <ul style="list-style-type: none">・福島市商業コミュニティ助成事業採択委員会 座長 <p>③その他の社会活動など</p> <ul style="list-style-type: none">・ラジオ高崎と本学との連携事業「高経ラジオゼミナール」に出演し、「現代日本の地域と社会を問う」をテーマに<地域>や<コミュニティ>にかんする講義をおこなった。・原発事故災害にともない避難を強いられた子どもたちが故郷について学ぶことを通じて「生きる力」（将来的な帰還是非の判断能力を含む）を身につけることを目的として、福島県富岡町の中高生が地元の長老に対しておこなう聞き書き事業「おせつぺとみおか」を実施した。	

3 次年度以降の計画・抱負

(1) 教育活動

- ・ゼミ 2 期生の演習Ⅱが始動する。ゼミ生が卒業論文の製作をとおして、研究課題の設定、仮説の構築と検証、調査研究の立て方と実践について、それらのノウハウを習得しながら、社会的意義をもつ研究成果を取りまとめられるよう指導・活動する。
- ・講義のなかで、アクティブ・ラーニングの可能性について検討・導入に努める。

(2) 研究活動

- ・2016 年度から取り組んでいる科研費基盤 B「福島原発事故後の復興ならびに社会再編過程に関する行政社会学的領域横断研究」の代表者として、引き続き、学際的な研究者からなる研究会運営ならびに研究活動を円滑に進めていく。

(3) 学内活動

- ・教務委員委員長として、また、学部長補佐として、本学の教育活動の向上に貢献できるよう努める。
- ・プレゼミ、ゼミの充実に努める。
- ・ピアレビューへの参加を通して、教育方法の改善・発展に努める。